

# 【特集】食の輪でいっしょの和を

子ども未来応援センター ☎049-252-1377 3

## 「飽食」、そして「貧困」

日本で1年間に廃棄される食品の量をご存じですか。国連WFP（国際連合世界食糧計画）の推計によると、約612万tにもおぼり、その数量は、国連WFPが1年間に支援する食料の量の約1.5倍になると言われています。

「飽食の時代」と言われる昨今。このデータだけを見れば、日本国内で食に困ることは想像できません。

しかし、実際はどうでしょうか。日本の相対的貧困率（※）は、欧米諸国や日本などのでつくる経済協力開発機構（OECD）の平均を上回っています。また、厚生労働省が実施した国民生活基礎調査では、平成30年の日本の子どもの貧困率は13・5%。約7人に1人の子どもが貧困状態にあることとなります。いわゆる「飢餓状態」ではないかもしれませんが、廃棄される食品の量とは裏腹に、栄養不足や食事に偏りのある家庭があることが想像できます。

## 立ち上がった地域団体

私たちの周囲に潜む貧困に対し、地域でできることがないだろうか。そのような想いから、市では多くの地域団体が「子ども食堂」や「フードパントリー」に取り組んでいます。

子ども食堂とは、孤食や生活困窮により団らんや十分な食事が摂れていない子どもに、無料または安価であたたかい食事を提供する取り組みです。

フードパントリーとは、ひとり親や生活困窮者など、生活に困っている方に食料を無料で配布する取り組みです。

本特集では、市内で子ども食堂などを運営する方々に、現場の声や想いを伺いました。

## 10月は食品ロス削減月間

環境課 ☎246

本来食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」といいます。現在、日本人1人当たりの食品ロス量は、年間約48kgと推計されています。大量の食品の処分には、多くのエネルギーが必要です。食品ロスは環境問題だけでなく、飢餓や貧困などにもつながり、世界中で食品ロス削減の取り組みが始まっています。

食品ロス削減のため、計画的な食材の購入や外食時の食べきりなど、食品ロスを意識した行動をしましょう。



## 少しずつ広がる 支援の輪

「実際に子ども食堂やフードパントリーの現場に立つと、貧困率などの数字だけではわからない不安を皆さんが抱えていることがわかりましたね」。そう語るのにはNPO法人ポトフ代表理事の戸賀沢さん。水谷公民館を中心とした子ども食堂（現在はコロナ禍により休止中）や、鶴瀬駅前メモリードホールを会場とした「子育てフードパントリー富士見」などを開催しています。

ポトフが初めて子ども食堂を開催したのは平成28年のこと。開催を重ねるにつれ参加者や調理ボランティアの輪が広がってきたといいます。また、フードパントリーも、開始した当初は食材のほとんどがNPO法人セカンドハーベスト・ジャパンからの支援でしたが、現在は食材の供給元も増えてきています。戸賀沢さんは「少しでも役に立てることがあれば」と子ども食堂に食材を提供してくれる市民の方も増えました。フードパントリーも、市や県からの支援を受けながら、私たちも加入している「埼玉フードパントリー」ネット

「トワーク」を通じた食材の配分が進んでいます。私たちの活動に理解が広がっていると思うとうれしいです」と語りました。

現場では子育ての孤立化も感じられるという戸賀沢さん。そんな家庭の後押しも活動目的のひとつ。「フードパントリーでお菓子を選んで帰って帰れる取組みをしています。ある時、帰りがけに子どもがうれしそうに『楽しかった』と一言。一緒に来ていた母親も笑顔になっていて。私たちの活動に参加することで、子どもも大人も前向きになれるような付加価値をつけたいと思っています」。

## 食料支援をとおして 人を前向きにしたい



みんなで一緒にあたたかいご飯を食べる子ども食堂（平成30年7月）



フードパントリーでは、買い物かご1杯分の食料を持って帰ってもらう

## 本当に必要なのは 和みの場

「食材の寄付はとてもありがたいこと。しかし、中には賞味期限切れの物や量が多すぎる場合もあって、『支援すること』と『無駄をなくすこと』は、ときにイコールではないのが難しいところなんです。大量の食材の寄付があっても、それを使いきれなければ結局食品ロスになります。食料支援現場の側面を語ったのは、「富士見みんなでプロジェクト」代表の東海林さん。コロナ禍に配慮した取り組みとして、市民福祉活動センターぱれっとの駐車場を利用したドライブスルー型のフードパントリーを開

催するなど、特色ある事業を展開しています。「SNSで募集を開始すると、その20分後には締切に達してしまい、改めて支援の必要性を感じますね」。そう語る東海林さんが考えているのは、誰もが参加できる地域の大きな食卓としての子ども食堂。「フードパントリーは短期的な食料・経済支援としては効果的ですが、私たちが本当につくりたいのは、貧困家庭だけでなく、みんながあたたかい食卓に集ってワイワイご飯を食べ、おなかも心も満たされるよ

## おなかだけでなく こころもいっぱい

### NPO法人 セカンドハーベスト・ ジャパン

市場には出せないが、人々が消費するには十分に安全性をもった食品を捨てずに生かす「フードバンク」を日本で初めて開催したNPO法人。協賛企業から寄付された食料を福祉施設などに届けている。



工夫を凝らしたメニューで子どもたちを喜ばせる



ドライブスルー型のフードパントリー

### 東海林 尚文 さん

富士見みんなでプロジェクト代表

テノール歌手として新国立劇場などの日本の主要なオペラ団体に所属して活躍する傍ら、子どもの貧困問題に衝撃を受け、子ども食堂などを運営している。



### 戸賀沢 隆士 さん

NPO法人ポトフ代表理事

孤立しがちな子育てに奮闘する家庭に対し、さまざまな角度から支援を行い、子どもの健やかな成長に寄与することを目的に活動している。大切にしているのは、継続性を持つこと。







NPO法人ポトフの子ども食堂「いっしょにたべよ」(平成30年7月)

## フードドライブを 実施しています

☎ 環境課 ☎ 246



フードドライブとは、家庭で余った食品などを持ち寄り、福祉団体などに寄付する活動です。下記に該当する食品がある場合はお持ちいただき、食品ロスの削減にご協力ください。

### 受付時間

平日午前8時30分～午後5時15分

### 回収場所

環境課

### 対象食品

- 家庭で余ったもので賞味期限が明記され、2か月以上あるもの
- 常温で保存可能なもの
- 未開封で、包装や外装が破損していないもの
- アルコール類でないもの
- 容器が瓶でないもの(運搬時に破損が懸念されるため)
- 玄米や白米は、2年以内に収穫され、調整・精米年月日の記載があるもの

令和2年9月現在、本市で子ども食堂を運営しているのは11団体。子ども・

ことから始めてみませんか。

## 自ら一歩を 踏み出す力

うな場所。そうすることでみんなに社会とのつながりを感じてもらうことです。その方が、長期的に見て地域に還<sup>かえ</sup>ってくるものは大きいと思うんです。そのような想いから、東海林さんは、子ども食堂や学習支援教室など、市内で子ども・若者の居場所支援活動を行う団体の連携を図る「富士見子ども・若者の居場所応援ネット」の代表に就任。食の問題を含めた、子どもや若者の総合的な支援のために奔走<sup>ほんそう</sup>しています。

若者の居場所支援に取り組む団体を含めれば19団体を数え、人口に対する割合では県内で最も多い地域のひとつです。そこから見えるのは、地域の課題を自ら見つけ、主体的に解決への一歩を踏み出すことができる多くの市民の皆さんの姿です。

子どもの貧困も食品ロスも、解決への道は私たちの小さな一歩から始まります。皆さんも一緒に、できる



富士見みんなプロジェクトのクリスマス会